

# 週刊センターニュース

No.280



第280号(2009年10月13日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## ○●○ 「2009年度大学コンソーシアム石川FDフォーラム」開催のご案内 ○●○

テーマ: 「学士力育成と教育の質保障を目指して」

趣旨: 昨年12月の中教審『学士課程教育の構築を目指して』答申において示された重要な事項に、学士力という考え方があります。文部科学省も、「各大学・短期大学・高等専門学校から申請された、各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組」を支援する「大学教育・学生支援推進事業」を始めました。学士力の育成と教育の質保障について、機関の種別を超えて議論することは、全ての高等教育関係者の喫緊の課題です。高等教育機関教職員・学生のみならず、多くの市民の参加を期待します。

主催: 大学コンソーシアム石川

日時: 2009年10月17日(土) 13時~17時 (12時30分開場予定)

会場: 石川県教育会館 3階 ホール 金沢市香林坊1-2-40

内容: 開会挨拶 大学コンソーシアム石川会長 中村 信一(金沢大学長)

第一部 13時10分~

●基調講演『学士力育成と大学教育改革—金沢工業大学の実践—』 石川憲一(金沢工業大学学長)

第二部 14時30分~

●報告 (各報告 20分)

1 専門学習達成度試験とプロジェクト型学習による学生の能力向上

石川工業高等専門学校電子情報工学科准教授 山田洋士

2 「短期大学士力」育成にとっての課題を考える

小松短期大学学長 鹿野勝彦

3 金沢大学における学士力に関する学生と教員の認識—全学アンケートの結果より—

金沢大学大学教育開発・支援センター教授 堀井祐介、同 特任助教 末本哲雄

●テーマに関するパネルディスカッション (パネリスト: 石川、山田、鹿野、堀井、末本)

●お知らせ 「戦略GPで変わる移転後の大学コンソーシアム石川」

戦略GP支援企画委員会委員長 古畑徹 (金沢大学教授)

閉会挨拶 大学コンソーシアム運営委員会委員長 向 智里(金沢大学学長補佐)

終了後、情報交換会 金沢21世紀美術館内「フュージョン21」(会場より徒歩5分)

※問い合わせ先: 大学コンソーシアム石川事務局 担当: 大野

TEL. 076-223-1633 FAX. 076-223-1644 E-mail: [shukan2@ucon.i.jp](mailto:shukan2@ucon.i.jp)

## 〇〇〇 日本教育工学会 第25回 全国大会 参加報告 〇〇〇

2009年9月19日～21日、東京大学本郷キャンパスで開催された日本教育工学会第25回全国大会に参加した。教育現場の変革に寄与する実践思考の研究として、ICT活用システムの構築や学生・生徒の学びのコミュニティ形成など様々な取り組みや成果の報告がなされた。

本稿では、著者が興味をもった武蔵大学の中橋雄氏による「メディア・リテラシー教育用リソースガイドと連動したSNS」よりヒントを得たことを紹介したい。

### SNS (Social Networking Service)

人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型のWebサイト。主な機能として、日記を公開する、他人の日記にコメントを書く、“コミュニティ”を作成して登録者を限定してコメントをしあうことができる。アカンサスポータルにも学内限定の“AcaNeCo”というSNSがあり、本学の構成員は自由に利用することができる。

この発表は、メディア・リテラシー教育の実践者がSNSのコミュニティ上(メンバー限定)で各自の指導方法や授業計画、実践記録を公開しあうこと、およびそれに対するコメントやファイルのやりとりを通して、教育実践者間の学び合いにおけるSNSの有効性を検証したという内容であった。

調査期間である2008年8月～2009年3月に小学校教諭6名を教育実践者としてSNSに登録し、同時にアドバイザーとして2名の研究者、1名のリソースガイド(先行研究で開発したワークシート・授業設計・指導方法の解説が含まれているマルチメディア教材)のモデル実践者をSNSに参画させた。教育実践者の手順は、(1)リソースガイドの閲覧、(2)実践計画の検討、(3)授業計画の公開・更新、(4)実践の記録の公開、(5)他の実践記録の閲覧・コメント、(6)質問・要望をコメントである。

教育実践者の感想として、「同じような悩みを以前に持った方からのアドバイスをもらえたことはありがたかった」、「メーリングリストと比べて、カテゴリーごとに整理されていて、全体の流れが分かりやすいと言う面は、とても良かった」、「他の先生の実践を参照できたり、過去に実戦経験のあるアドバイザーに相談できたりする仕組みは、大変嬉しいことであり心強い」などと概ね肯定的であったという。

本発表を聞きながら、アカンサスポータルのSNSである“AcaNeCo”を使っても同じような教育実践者同士の学び合いが可能であると感じた。SNSとして利用している機能自体は標準的なもので、基本的に実践記録と相談に他者のコメントがつけば十分である。ただし、文書やスライドファイルを載せる場合には改修が必要かも知れない(画像としてなら1回のコメントで3枚まで添付可能である)。

ポートフォリオとしてきちんと運用する場合は別として、「気軽に数行のコメントを推奨する」などの取り決めをしておけば、過度の負担を強いることなく、より現場的で実践に即した形で情報を交換できる場所として利用を検討できるであろう。運用上の注意点として、報告者の中橋氏も「いかにコメントをしやすい雰囲気」をつくるかが重要であると指摘していたように、前向きなコメントや相談しやすい状況の構築が参加者のモチベーションを維持するために最も重要といえる。

最後に、SNSは閉じたコミュニティだけでなく、他のテーマで集まったコミュニティにも容易に参加し、自分の活動場所とリンクさせることが特徴である。学生も自らの趣味(ゲーム・アニメ・映画)や要求(試験対策・公務員試験勉強など)で多くのコミュニティを作っている。そうしたコミュニティをのぞいてみれば気軽なコメントを残してみると、学生との距離が縮まるかも知れない。

文責 末本 哲雄 (FD・ICT教育推進室)